第１学年３組　国語科学習指導案

授業者：北村　龍宝

単元名：「「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」（本時：５/５時間）

【生成 AI の活用】

① **説明文の構成を理解する教材及び単元計画の検討（ChatGPT の活用）**

Q：中学校国語科『「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ』の単元終末の授業づくりを行いたい。単に、「シジュウカラにも言葉がある」と理解するだけでなく、本文の複数の叙述を根拠に話し合うことで、生徒がそれまで持っていた「言葉」に対する考えを見直したり、深めたりできる学習活動を提案してほしい。

A：まず、「ジャージャー」は「鳴き声・単語・言葉」のどれだと思うかを選ばせ、その理由を考えさせるといいと思います。

その後、教材名に戻り、「なぜ筆者は『言葉』と考えたのか」を、前時までに学習した実験や本文の複数の叙述を根拠に考えさせます。

さらに、「筆者が『言葉』と言っているから、自分も『言葉』と考えるのか」と問い返し、「ジャージャーは本当に『言葉』と呼べるのか」について話し合わせます。

最後に「そもそも言葉とは何か」を考えさせることで、本文や他者の考えをもとに、自分の「言葉」に対する捉えを見直したり深めたりする授業にするとよいと思います。

② 話し合い活動を促すための意見共有アプリの作成（生成 AI の活用）

「ジャージャー」を「鳴き声・単語・言葉」のどれと捉えるかについて、生徒一人一人の考えを共有するためのアプリを生成 AI を活用して作成した。生徒は、三つの立場から自分の考えを選択し、その理由を入力することで、学級全体の立場と理由を一覧で確認することができる。自分と同じ立場でも理由が異なる意見や、自分とは異なる立場の意見を容易に見付けられるようにすることで、交流する相手や尋ねたい内容を自ら選択し、本文を根拠として考えを比較したり問い直したりする話し合いにつなげることができるようにした。

【単元計画】　（全５時間、本時：５時間目）

	時数	学習活動・内容
導入	1	説明文の構造を理解する。
	1	全文を通読する。
展開	1	シジュウカラの鳴き声について本文の内容をまとめる。
	1	二つの実験を比較して考える。
終末	1	単語の違いに着目して自分の考えを話し合う。

【本時案】

単元目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
文章の構成や展開を理解し、筆者が事実・仮説・実験・結論を関連付けて論を展開していることを理解することができる。	文章中の複数の叙述を結び付けて考え、根拠を明確にしながら自分の考えを形成することができる。	本文を根拠に考えを伝え合い、多様な考えを取り入れながら、自分の考えを見直そうとしている。

本時の主眼	シジュウカラの鳴き声を「言葉」と呼べるかについて、本文の複数の叙述を関連付けたり、他者の考えと比較したりすることを通して、筆者の「言葉」に対する捉えを考えて深めることができる。【知識・技能】
準備	□　学習プリント　　□　タブレット（教師）　　□　電子黒板

過程	学習活動・内容	手立て（○）評価（◇）	形態	配時
導入	1　学習課題をつかみ、見通しをもつ。 ・前時の確認	○　学習課題を共有するために、シジュウカラの音声を流す。 ○　筆者が立てている仮説を電子黒板に提示する。 **生成 AI の活用**	個	5
	【学習課題】 「ジャージャー」は、本当に「言葉」と呼べるのだろうか。			
	めあて　筆者はなぜ、シジュウカラが『言葉』をもつと考えたのだろうか。			
展開	2　本文の叙述から筆者が「言葉」をもつ鳥と考えた根拠を考える。 ・単語を使いわけるだけではない。 ・単語を組み合わせている。 ・複雑なメッセージを伝えている。	○　「単語」と「言葉」の違いに気付くことができるように、シジュウカラの鳴き声の表を提示する。 ○　根拠が見つからない生徒には、「意味」と「行動」の二点から本文を振り返るように助言する。	個	15
	3　全体交流する。 ・「ジャージャー」が「言葉」と呼べる根拠	○　「私は～と考える。理由は～という本文の記述からである。」という発言型を提示することで、全員が根拠付きで発言するよう助言する。	班 ↓ 全	15
終末	4　まとめ（振り返り）を行う。 ・本文の叙述を自分の経験と関連付けて「言葉」に対する筆者の捉えをまとめる。	◇　文章中の複数の叙述や他者の考えを取り入れ、自分の「言葉」に対する捉えをまとめている。【学習プリント】 **話し合い活動**	全	15
	まとめ（振り返り） シジュウカラの鳴き声には特定の意味があり、その意味を仲間と共有していることから、筆者はシジュウカラが「言葉」をもつと考えた。 「言葉」とは、意味をもち、その意味を相手と共有できるものだと考えられる。			